



# 2024国際航空宇宙展

## Report

2024年10月16～19日の4日間にわたり、東京ビッグサイトにて開催された2024国際航空宇宙展。日本最大級の航空・宇宙の総合展示会であり、世界27の国と地域から、685の会社・団体が出展しました。

### 圧力センサー素子やAIカメラなど展示

東京計器は、電子システムカンパニーと通信制御システムカンパニーの2部門が合同で出展しました。航空分野では、機体の高度・速度などの飛行に必要な情報収集に使われる圧力センサー素子や機体に搭載する各種アンテナを展示したほか、東京計器製デバイス「DAPDNA」を用いたスタンドアロンAIカメラなどを初出品。宇宙分野では、小型SAR(合成開口レーダー)衛星への搭載実績がある高出力パワーアンプや他社との協業実績を紹介しました。



①

①初出品となるスタンドアロンAIカメラ。脅威となるドローンを検知するシステムの開発を見据え、エッジAIを用いたデータ収集が可能。



②

当社ブースは、「防衛」と「宇宙」をテーマに紺と青のカラーで装飾。ブース内の高所に電波検知器を搭載したドローンを設置し、電波の受信状況を確認できるようにしている。

### 得意な防衛分野の技術を宇宙産業へ応用

防衛産業に長く携わっている当社は、戦闘機に搭載するレーダー警戒装置などの開発で培った高度なマイクロ波の技術を有しています。また、製品の筐体となる金属を過酷な環境下でも耐えうる防衛品質に加工する技術も得意分野の一つです。

このような背景から防衛に関わる製品については、設計開発から製造、評価、保守までを社内ですべて完結することが可能です。

さらに、これら防衛分野の技術に対しては、世界的にも盛り上がりを見せる宇宙産業への応用を見込んでいます。年々市場規模が拡大する宇宙産業は政府からの積極的な支援もあり、従来から宇宙事業に取り組む大手重工業メーカーなどだけでなく、最近ではスタートアップ企業も多数進出しています。



③④当社の技術が詰め込まれた航空機用広帯域アンテナの一種。異なる周波数に幅広く対応しており、使用環境に最適な形状を採用する。他の防衛製品と同様に、基本は仕様に合わせて「1点モノ」となる。⑤防衛製品の製造現場の様子。⑥顕微鏡を用いた手作業の組み立てもある。

### 宇宙産業では絶対的な品質がポイントに

宇宙で使われる製品には、ロケット打ち上げの際の振動や宇宙空間における極端な温度変化など、地上で使用する製品とは別次元の耐性が求められます。また、宇宙に送ったものは基本的に修理が不可能なため、耐用年数の保証も必須。宇宙産業は未開拓の分野でありながら絶対的な品質が求められるため、多くのスタートアップ企業がこの展示会で、規格が厳しい防衛製品の実績を有する企業とのマッチングを期待しているようでした。



### 電子システムカンパニー 営業部コメント

この展示会では、「無人機」関連の製品を展示する企業が多く見られました。無人機は、それ自体の機能や性能はもちろん重要ですが、当社はそれ以外の「付加価値」がより重要と考え、無人機搭載型の電波検知器やAIカメラなどを展示。多くのお問い合わせをいただきました。

また今回は、宇宙関連製品を取り扱う当社の通信制御システムカンパニーとともに出展。これにより、防衛省が今後さらに注力していく「宇宙領域」への参入に対して、多くの可能性と手ごたえを感じました。

電子システムカンパニーは、今年5月に幕張メッセで実施されるDSEI JAPAN2025にも出展します



2024国際航空宇宙展 東京計器ブースの様子はこちら

